

総合教育会議 会議録

会議の名称	令和2年度第1回山口市総合教育会議
開催日時	令和2年11月5日（木）11時15分～14時
開催場所	中央小学校
公開・部分公開の区分	公開
出席者	<p>山口市長 渡辺 純忠</p> <p>山口市教育委員会</p> <p>教育長 藤本 孝治</p> <p>委員 山本 晃久</p> <p>委員 佐々木 司</p> <p>委員 横山 洋之</p> <p>委員 竹内 芳雄</p> <p>委員 佐藤 真澄</p> <p>委員 角川 早苗</p> <p>中央小校長 古谷 伸浩</p>
事務局	<p>総合政策部長 田中 和人、総合政策部次長 山田 豊成</p> <p>企画経営課長 今井 宏二</p> <p>教育部長 礒部 素男</p> <p>教育総務課長 中村 武司、教育施設管理課長 藤原 茂</p> <p>学校教育課長 宮崎 康生、社会教育課長 江村 俊彰</p>
次第等	<p>【次第】</p> <p>1 授業等視察</p> <p>2 給食実食</p> <p>3 会議</p> <p>（1）市長挨拶</p> <p>（2）議事</p> <p>・「コロナ禍における教育環境づくり」について ～小・中学校でのICTの活用等～</p> <p>4 閉会</p> <p>【資料】</p> <p>・ 次第</p> <p>・ 令和2年度第1回山口市総合教育会議議事資料</p>

内容	<p>1 授業視察 1 1時15分～1 2時</p> <p>2 給食実食 1 2時10分～1 2時40分</p> <p>3 会議開会 1 2時50分 開会</p> <p>○礒部教育部長 それでは、ただ今より、令和2年度第1回山口市総合教育会議の会議を開催いたします。</p> <p>私は、この会議の進行を務めさせていただきます、教育部長の礒部でございます。どうぞよろしくお願いいたします。それでは着座にて説明させていただきます。最初に本会議の主催者でございます、渡辺市長が御挨拶を申し上げます。</p> <p>(1) 市長挨拶</p> <p>○渡辺市長 それでは、総合教育会議の開催に当たりまして、一言御挨拶を申し上げます。</p> <p>委員の皆様方、そして、古屋校長先生におかれましては、何かとお忙しい中、御出席を賜り、誠にありがとうございます。皆様には、平素から本市の教育行政の推進につきまして、子どもたちの教育環境の充実や、社会教育環境の向上のために、日々、多大なる御尽力を賜っておりますことに対しまして、厚くお礼を申し上げます。</p> <p>さて、本市におきましては、まちづくりの指針となります、第二次山口市総合計画に基づき、山口に住んでみたい・住み続けたいと心から思っただくという、定住実現に向けたまちづくりを進めております。とりわけ、教育分野におきましては、総合計画におけます、8つのプロジェクトの1つといたしまして、「教育・子育てなら山口」を掲げ、郷土に愛着や誇りを持つ子どもたちを社会全体で育むコミュニティ・スクールの推進や、県内トップクラスの学習指導体制の構築など、変化し続ける社会の中においても、柔軟に対応していくことができるよう、子どもたちの生きる力を伸ばすための教育環境の整備・充実に鋭意取り組んでいるところでございます。</p> <p>また、御案内のとおり、本年は、新型コロナウイルス感染症の影響によりまして、教育委員会及び学校現場におかれましては、学校の臨時休業を始め、夏季休業期間の短縮や、感染拡大防止対策の徹底など、これまでに子どもが経験しなかった対応を迫られる機会が多かったものと拝察をいたします。</p> <p>しかしながら、教育現場の皆様方の御尽力によりまして、市内小中学校においては、安全な学校運営が行われており、子どもたちが安心して学校生活を送ることができておりますことに対しまして、改めて深く感謝を申し上げます。</p> <p>本市といたしましても、感染症の拡大防止と、社会経済活動の両立といった、前例の</p>
----	--

ない課題に対し、その解決に向けた様々な取組を、スピード感をもって進めているところでございまして、教育分野におきましては、子どもたちの健やかな学びを、最大限に保障する観点から、市立小中学校の全ての児童・生徒に、一人一台のパソコンを配備いたしまして、先程の授業視察でも御覧いただきましたが、本市独自の取組となるA Iドリル教材の導入等を行ってきたところでございます。

この度の新型コロナウイルス感染症に対応した、新しい生活様式を踏まえた学校運用の展開に合わせまして、国のデジタル化の加速化において、ICTを活用した事業が積極的に展開される等、これまでの授業のあり方そのものが、大きく変わろうとしておりますことから、今まで以上に教育委員の皆様、学校現場の皆様と情報共有を行い、迅速な対応を取っていくことが、より一層必要となり重要となってまいります。

こうした中、本日の会議におきましては、先程の授業視察等踏まえながら、皆様方から忌憚のない御意見をいただく機会を得ておりますことは、誠に時期を得たものでございまして、有意義な会議となりますことを、大いに期待しているところでございます。

今後とも、教育委員会を始め、家庭や地域社会といった「オールやまぐち」で、時代を拓く子どもたちの、確かな育ちや学びを、しっかりと支えてまいりたいと考えておりますので、皆様方の一層のお力添えを賜りますようお願いを申し上げまして、挨拶とさせていただきます。今日はどうかよろしく願いいたします。

(2) 議事

○磯部教育部長

それでは議事に移らせていただきます。

本市における取組の状況や概略につきましては、お手元の資料を御覧いただきたいと思います。

それでは、まずは古屋校長先生に、学校紹介を含め、小学校の現場の状況などについてお話をいただき、その後、皆様から御意見、御発言をいただきたいと思います。

それでは古屋校長先生、よろしく願いいたします。

○古屋校長

それでは、改めまして皆様、こんにちは。

平素から、渡辺市長様始め、藤本教育長様、そして、6名の教育委員の皆様には、本校教育に多大なる御尽力・御理解をいただき誠にありがとうございます。

最初に、あちらの生け花を御紹介させていただきます。草月流の方に月2回ほど、校長室・玄関等、生け花をいけていただいております。

ではこれから、本校の教育活動を、10分間で御紹介させていただきます。

この写真は、先日、「ふれあい遠足」をした時の様子であります。新型コロナウイルスで行事が削減される中、ひと時を大いに楽しみました。そしてこのイラストは、この二学期に本校児童が作りました、中央小学校のキャラクター、「中太くん」と「中菜ちゃん」です。これからどんどん、このゆるキャラを活用していきたいと考えております。

さて、本校の学校教育目標ですが、『未来に夢をもち「かしこく」「やさしく」「た

くましく」心豊かに生き抜く児童の育成』としております。目指す学校像・子ども像・教職員像と、3つの立場で理想とする姿を設定しております。子どもは、「知・徳・体」のバランスが取れた児童を目指しております。重点事項としては「確かな学力」、「豊かな心」、「たくましい体」の3つに、それぞれ具体的な達成目標を立てております。

「学力」につきましては、本日御覧いただいたように、基礎学力の定着にICTを活用しております。また、私が特に大事にしています、主体的・対話的な学びのためには、問題解決的な学習をベースとした授業が必要であります。現在、どこの学校でも、結構、フリートークの時間が設けられておりますが、教職員、特に新しく来た人には、現在、白石小学校に、非常にフリートーク堪能な先生がおられますので、全職員を先日、視察に行きまして、そういうような研修も、なかなか研修の機会がない中ではありますが、見つけては、そのような交流、そして、人材育成を行っております。

今年度は、どの学校でも、新型コロナウイルス対応が大きな課題でございます。本校の取組の一部を御覧いただきます。まず、「学校行事の変更」です。夏休みに行われます「PTA奉仕作業」は中止としまして、二学期に9月8日、9日、10日の4時から6時までの間、いずれかの時間でお越しいただきたいということで呼びかけましたところ、3日間にわたり、たくさんの保護者の方、地域の方が、分散でグラウンド整備をしてくださいました。

また、秋季大運動会を中止といたしました。その代わりになるものとして、これは、2時間、低学年・下学年が1時間、上学年が1時間ほどの「体育学習発表会」というものを設けました。修学旅行は、先月中旬、萩方面に日帰りで行ってまいりました。同じく宿泊学習が「自然体験学習」として、これも同じ徳地の地元ではありますが、日帰りで行いました。修学旅行の対応も、やはり今年と同じように、秋に設定したいと思いましたが、来年は、地域の協力、保護者の同意を、ちょうど本日の夜7時半からPTAの会合を設けますが、御理解いただくよう保護者に伝えるところでございます。

一学期は、保護者・地域の方をなかなか学校にお迎えする機会がございませんでした。そこで本校では、学校だより、又は、このホームページを活用して、学校の様子をできる限り伝えるようにしました。「活動報告」というページで、このように、毎日更新しております。先生方に負担をかけないように、私が責任をもって新聞記者をして、毎日更新しております。今日も来られましたけれど、新聞記者の方の苦労が非常に分かります。これは、先程、栄養教諭が御説明しました「あまご」ですね。人形浄瑠璃の練習も現在行っております。また、臨時休業中には「学習ページ」というものを作りまして、教員が手作りの動画教材をアップしました。ただ、家庭の環境によっては見られないという家庭があったので、その家庭にはプリントを配布いたしました。

それでは、4月からの学校行事の一部を写真で御紹介いたします。これは4月の「始業式」、「入学式」です。残念ながら来賓の方々には、今年はお越しいただきませんでした。心温まる入学式、そして、1年生を迎える会を行うことができました。今年は一学期、参観日を行う学校はほとんどなかったのですが、徳地の5校は先駆けて、感染症対策をとってですね、7月14日に市内で最初の授業参観日を実施しました。参観時間を20分間と限定しましたので、「これから我が子が発表する」という時に、「はい、

時間です。」ということで、あとから非常に残念がられる保護者の方の声もお伺いしましたけれど、先日、2回目の参観日を行った際には、45分全て見ていただく参観日を実施することができました。今年は、例年でしたら夏休み中となる7月31日に終業式を行いました。感染症対策として、本校の児童は79人しかおりませんが、各教室に分かれてのオンライン終業式でございます。この方式は、市内の小中学校どこでもできる校内放送・校内ビデオ放送で行いました。ちょうどこの時期に、エアコンの取り付けが終了しました。連日、業者の方々には、本当に一生懸命取り付けいただきまして、夏休みまでに、全て設置が完了し、二学期を迎えることができました。この踊っている写真を御覧ください。ちょうど、ただ今、会議を行っております、この場所です。あちらにあるように、エアコンが2基あります。ここを広くして、先程の体育学習発表会の練習、沖縄舞踊の「エイサー」ですね。エイサーをここで踊ることができ、子どもたちも先生方もエアコン設置に大変感謝しております。

一学期には、書面決議で学校運営協議会を行いました。8月末、初めて、第2回目の学校運営協議会を開催しました。協議のメインは、やはり新型コロナウイルス対応でした。このような中でも頑張っている子どもたち、そして教職員を労っていただき、委員の方々から励ましのお言葉をいただきました。

コミュニティ・スクールの活動も、一学期は制限されていましたが、まずは、読み聞かせの活動から再開しました。また、例年、地域の方の畑をお借りしてサツマイモを植えておりますが、今年は保育園との交流活動は中止となり、本校のみで植えております。来週が芋の収穫になっております。また、花壇・グラウンド整備の作業を行う様子です。毎年行っております「人形浄瑠璃」も、今月13日に体育館で、間隔を取って、通常どおり実施・上演予定です。例年でしたら、隣の徳地文化ホールで開催するわけですが、ちょうど10月から工事が始まりましたので、今年は体育館で上演いたします。他にも、おやじの会の方々による挨拶運動、また、除草作業、先日は、これは、ちょうど丸久の隣の溝なのですけれど、徳地中学校と合同で地域の清掃活動を行いました。地域行事も今年はほとんど行われないため、なかなか地域貢献の機会が少ないというのが現状であります。こういう中、何かできないかなということで、新しいイベントを企画しました。「コミスク交流広場」でございます。地域にゆかりのある芸術家、又は職人さんの作品、又は技を鑑賞することを通して、子どもたちの情操を育むとともに、職業に対するあこがれをもつ、キャリア教育の一環として、それを目的に、月1回、ゲストをお招きして、先日行いました第1回は、アマチュア画家の平松佐智子さんの絵画展を、参観日の日に行いました。第2回目は、日本野鳥の会の方をお招きして、野鳥のお話をさせていただきます。これが第1回目の様子です。先日、ケーブルテレビでも御紹介していただきました。

最後に、本校のICTの実践について御紹介します。徳地地区5校の交流会は、今年は実際に交流をするのではなく、ちょうど今日見ていただきましたが、オンラインを通して交流をしようということで、徳地の校長会で取り決めをしました。また、このオンラインの環境が整ったことで、ちょうどこれも見ていただいた、今日と同じような状況ですが、柚野木小学校とのオンライン授業、又はインターネット検索の練習、こういう

のにも使えますし、これは今日の佐賀小学校の、第1回目の交流学习の様子です。また、私の知らないところで、先生方が「校長先生、沖縄の学校とオンラインしていいですか」、「それはどうぞどうぞ」。そういうものも、見つけてきてくれまして、4・5・6年生が、沖縄県の小学校と交流をしていました。タブレットドリルは、まだスタートしたばかりですが、子どもたちはさすがに覚えるのが早く、教師が説明することもなく、どんどん進めております。

以上、本校の教育活動を御紹介いたしました。本日御覧いただきました、授業等に関する御意見、御感想をいただくと、大変ありがたいと思います。以上で、発表を終わります。

○磯部教育部長

校長先生、ありがとうございました。先程見ていただいた授業視察、それから、ただ今の先生の説明も踏まえまして、御感想なり一言ずついただきたいと思います。

まず、教育委員の皆様からコメントをいただきまして、その後、市長、教育長にコメントいただきたいと思います。

それでは、山本委員から順番によろしく願いいたします。

○山本委員

それでは失礼いたします。古屋校長先生、今日は、ありがとうございました。

今日、古屋校長先生の御発表を聞いて、そして、子どもたちの様子を拝見しながら、まず、今日の議事が「コロナ禍における教育環境づくりについて」という、この大きなテーマでいくと、今日、校長先生が伝えたかったのは、3つの合言葉「声を掛け合い」、「励まし合い」、「知恵を出し合う」。この3つに収斂されるような取組をなさっているのだろうなというふうに思いました。

なおかつ、これは中央小学校のことだけではなく、本市内の学校、みんなそうではないかなど。それに今回の、いわゆるICTの環境が加わって、さらに、それが色付けされていることというところで、今日のサブテーマであります「ICTの活用」ということを考えますと、私たち、常日頃から学校訪問させていただいておりますが、この近年、ICT環境が整備されてきて、先生方の取組が随分変わってきました。当初は本当、「もっと使ってください」というお願いをしていたのが、最近どこの学級に行ってもテレビの画面はついていて、何かしらの活用はされています。まだそれは始まったばかりですから、先生方、随分昔に比べればアクティブな使い方と言いましょか、いわゆる図を動かすということではできるようになったのですが、それをきっかけにして、先生方も子どもたちも、今からもっともっと進化してほしいと思っています。その進化の走りが、今日の中央小学校さんの取組だろうと思います。タブレットの活用であっても、オンラインの活用であっても、今からどんどんどんどん進化してくるのだろうなと思います。

例えば、今日、社会科の歴史の学習で、武家諸法度が提示されておりました。私も、以前訪問した学校で、やはり武家諸法度の授業を見ました。今日は、そういう静的なものページで終わっています。私が見た授業も、「これで参勤交代始まって、殿さまは

どんなふうに思っただろうね」という先生の投げかけに対して、「それは寂しかった」とかですね、「奥さん、子どもに会えないことが寂しいだろうな」とか、「悲しいだろうな」とか、いわゆる子どもの主観的な感想を述べておりました。しかし、そこにICTが入ってきて、自分で検索して、自分で思考が始まれば、もっともっと他の意見が深く出てくると思うのですね。

ICTを今から進化させることについても、やはり離れてはいけないのは、学習指導要領の「主体的で対話的で深い学び」。ここからは離れていってはいけないし、そこに向かわねばならない。ICTが、今からどんどんどんどん活用されてくるとは思いますけれども、収斂されるのは、そこに収斂されていくべきだろうなと。だから、リモートの授業であっても、今から先やっていくうちに、いろいろな課題がまだまだ生まれてくるとは思います。今は2回線ですが「2回線でいいのか？」という話もあると思います。そういうことに対して、いろいろな知恵を出し合いながら、改善して行って、どんどん進化するものだと思いますので、もっともっと進化してもらいたいなど。

もちろんそのためには、市はお金をかけてもらわないといけないというところはあるのですけれども、いるものがあつたら要求していかないといけないと思うところです。

以上です。ありがとうございました。

○佐々木委員

校長先生、今日はどうもありがとうございました。

校長先生始め、諸先生方、それから子どもたちが、本当に温かい気持ちで、私たちの訪問を受け入れてくださったということが良く伝わってくる授業でありました。特に4年生、5年生、午前中は、そのところで、少し長めに滞在をさせていただいたということがあります。タブレットドリルでの取組も、子どもたちの自主性・主体性と言いますか、ICTを使った学習というのは、受け身でというよりも、むしろ自主性・主体性が問われるものだろうと思いますので、校長先生が先程言われたように、「主体的で対話的で深い学び」というのは、グループで話し合ったりするというのは、活動の中でも、確かに力を発揮するとは思いますが、1人で主体的に向かい合うと言いますか、そういうところでも大事になってくる。そういうことを踏まえての実践だったのではないかなというふうに捉えました。それと少し関係するかなと思うのは、先程の資料の中で、自問掃除というようなものが文字としてありまして、無言清掃というものもありますけれども、心を見つめると、気持ちをそろえると。掃除というのは、心を磨くということでやっておりますので、自問自答して、例えば、ここをどういうふうに清掃していくのが良いのかとか、あるいは自分と向き合うという、そういう時間にもなろうと思いますので、レベルの高いというかですね、どちらも高い活動を実践されてらっしゃることが伝わってまいりました。

それから4年生の方の、佐賀小4年生とのオンライン交流なのですが、これは、質問になるのですが、今日はこちらがメインで授業をやられたかと思うのですが、入れ替えて、メインがあちらになったりこちらになったり、その時その時で変わってくるのですか。

○古谷校長

変わります。

柚野木小学校の場合も、こちらがメインだったり向こうがメインだったりすることがございました。

○佐々木委員

多少、メインの時とサブと言いますか、児童の受け止め方というか受け方、違いますかね。

○古谷校長

いえ、柚野木の先生が、向こうがメインだったという時も、今の子どもたちの様子を見てみましたら、同じように反応していました。やはり「音が聞こえる」というのが一番大切なことだなと思いました。

○佐々木委員

それは良いですね。メインの時だけグンと活躍してサブだと活躍しないということはないということを今、伺いまして、非常に良いことだなと。先生方の御準備等もあろうかと思えますし、それから校長先生の前任校というのもありましたので、そういったかたちでの交流、沖縄の学校といった感じでの、交流が深まるチャンス、今がチャンスということになるかと思うのです。

それから、その時の授業で、いわゆるノイズというのですかね、使わない情報を交えての計算をもったということがありまして、最近そういうことも増えてきているとは思いますが、良い取組の中で、子どもたちが問題を作るということもなさいますか。というのは、1つの提案になるのですけれども、子どもたちが良い問題を作れるというのも、1つのレベルアップのやり方かなとも思いますので、少しそういうこともできたら良いと思いました。

いずれにしても、今日一日、限られた時間ではありましたが、温かく迎えてくださりまして、それから、すごく詳しい、心のこもった御説明等いただきまして、感謝申し上げます。私からは以上です。ありがとうございました。

○佐藤委員

ありがとうございました。

最初に行かせていただいた3年生の教室で、これだけの人が入っていたので子どもたちもすごく舞い上がってしまっていて、すごい子どもらしい、かわいい反応だなと思ったのですが、その後、どうなるかなと思っていたのですが、それは素晴らしいと思って、最初はみんな振り返ってやっていたのですが、先生が授業を始められた途端に、子どもたちも前を向いて静かに、切り替えがとても上手だなというふうに感心しました。

あと、AIドリルのクラスなのですけれど、私も1人の子のところで見せてもらっていて、たぶん3回目だということで慣れてなくて、その子間違えて、消し方が分からな

かったみたいなのですが、やはりタブレットってすごいというのは、感覚的に、たぶん最初にやって消せない、消せないけれど、次に新しい解答を入れたら消せるのだということが分かったみたいで、入れ直すと上書きされるのだというのを、やっている間に分かってきて、この様子を見てみると、感覚的に学んでいくことは大事で、「すごく楽しい」と本人も言っていたので、そういうことがこれからどんどん進んでいくといいなというふうに思いました。

あと、4年生の佐賀小学校とのオンライン交流なのですが、最初に「ああ、そうなんだ」と思ったのは、算数の授業だということがとても私の中では意外性がありました。もう少し、答えがない科目とかというのに、オンライン交流は向いているのかなというふうに考えたのですが、算数でされているということは、私の中ではすごく画期的だなというふうに思いました。ただ、子どもと話している時に感じたのですが、その子が「いつも話している人と話すのも楽しいけど、そうでない人と話す方が楽しいな」と言ってくれたのと同時に、その子が「向こうの佐賀小学校のいつも違う人と話すのだけど、今度同じ人と話せるといいな」と言っていたのです。小さい、小規模な学校だと、友達も選択肢が限られる中で、せっかく交流していく中に、名前がつながる関係と言うか、集団対集団ではなく、個対個というつながりが、次にオンラインでできたらいいなと思ったのと、そのためにカメラアングル、大きく全体を映す同士だと個というのはなかなか見えないので、そのあたりは課題なのかなというふうに感じました。

その子に「普段はどんな授業しているの?」と言って、最初に出たのが「道徳」と言って、一番に答えるものがその子にとったら一番印象に残っているのかなと思うと、やはり自分の考えを述べるというのが、いろいろな価値観に触れるのに良い機会なのかなというふうに感じました。

最後終わった時に、「一緒に給食も食べたいね」と言っていたのが、とても印象的で、まだまだAI、ICTも含めてなのなのですが、そういうのは活用の可能性を秘めているのだなというふうに感じました。ありがとうございました。

○横山委員

どうもありがとうございました。各学年を回らせていただいて、AIドリルの授業の間は、みんなすごく静かでした。当然、自習なので、1人の授業なのですが、そのへんが私は、将来的に教室でAIドリルをする時の話し合いをすとか、そういうことができないかなと。これは感覚的な問題です。そういうかたちで思いました。

他のクラスは、例えば「みんなで話し合います」と言ったら、みんな机から立って話したりしていたのですが、AIドリル、1人でトントントンとやっているのを見まして、今、最初にその機械に慣れるということ自体が大切だと考えれば、それも非常に良いので、将来的には、何らかの方法で、コミュニケーションをとるやり方がないのかなと考えました。それと、今度は学校行事の変更とかそういうかたちで、今、コロナ禍の中で見ますと、言うなれば体と体でつながるといふ行事がなかなかできない。それと、縦のつながりができないということが、今年になって他の学校にも、学校訪問で行かせてもらったのですが、やはり、校長先生も、そういう意味の、少し危機感を

感じられていたようです。だからどうしても、例えば「1年生がどうも幼稚園から伸びないな」と。学力ではなくて、態度とかそういうもので伸びないなというのは、やはり縦のつながりがなかなか難しいなということで思っております。

特に10月ぐらいになってきて、心が少し弱くなっている部分が増えているなどというのは、別の学校で言われていたのですが、そういう意味で、大変な時期とは思いますが、やはり高学年・低学年とのつながりを何とかもっていただきたいと思いました。

それと後、授業とはちょっと違うのですが、各教室のいろいろな先生方の「挨拶をこうしましょう」とかいうことが、学校として作られた印刷物ではなく、手書きでいろいろなこと、チラシやポスターの裏を使うなど、そういうことで、少し明るくしようなどというのは感心しました。ちょうど3年生のクラスの右に、先生が「ジャイアンのだ」を書いてあって、先生の顔を見てすぐ分かりました。

ほとんど感想です。どうもありがとうございました。

○竹内委員

今日はありがとうございました。新型コロナウイルス対策で、随分大変だったなどいうふうに改めて感じさせていただきました。

今日、授業を見させていただいて、どのクラスの子どもたちも本当に落ち着いて、よくやっていたなと思います。5年生のA Iドリルなのですが、ドリルといったら紙の冊子になったやつで、昔のことを頭に入れていたのだけどうなのかなと思って、反応が早いからですね、結果をすぐ子どもが知りたいと、そういうこと、すぐ採点をしてみたいですね。そういうことから、面白いから、正解だったら面白いし、間違ったら「あ、そこ間違っただけ」というのでまたやってみる。そういう取組が、本当に子どもの主体的な取組につながるような気がするのです。習熟するには良い道具だなと、ツールだなと思いました。

それから4年生のオンライン授業ですが、徳地地区は、かつて、今もそうですけれど集合学習がありますよね。これはもう、20年ぐらい前からやっているのではないかなと思うのですが、その後、双方向テレビで、テレビ学習をやっていた時代があったと思うのですが、それがまた、このICTの活用ですね、本当変わってきている。今日は最先端の授業を見せていただいて「なるほどなあ」ということを思いました。ただ、先程から話が出ていますように、カメラの位置とか、それから音の関係、マイクですね、ノイズの問題とか、いろいろあると思いますし、さらには、今日2回線、さらに何回線かあると、もっと子どもたちの交流が進んでいくのではないかなというふうに思いました。それから、授業の最後ですね、「めあて」のところに丸が書いてあって、「何々に整理して、〇〇〇して考えよう」という、それが最後のまとめのところですね、初めて「なるほど、ああなっているのか」と思いました。よく工夫しておられたなと思いました。それと子どもたちがですね、いろいろな発表するのに、積極的だったのです。4年生の子どもたちが積極的で、これは今、フリートークに取り組んでおられる成果ではないかなとちょっと思いながらですね、見させていただきました。今日は大

変、どうもありがとうございました。

○角川委員

ありがとうございました。自分の子どもの頃とはずいぶん授業が変わってきたなということを本当に感じました。AIドリルで本当に思うのですけれども、先程から言われるように、紙の時と違って、すぐ答え・間違いが分かるというのがすごく良いなというふうに思いました。紙だと、自分が全部やって、最後答え合わせして「間違えていた」ではなくて、すぐにそこで「間違えていた」、「なぜそこが間違っていたか」、「分からない場合はその説明」までが、AIドリルだと詳しく出てくるので、本当にこれを積極的に取り組むことで、学力が確実にアップしていこうなということ、すごく思いました。

それから、オンライン授業なのですけれども、私の個人的な感想というか、今のコロナ禍で、マスクをしなければいけないことはしょうがないことなのですけれども、ただでさえ、教室で見ても、口元はすごく大事だと思うのです。オンラインで、特に画面上で見たら、口元が分からないと、言われていることがとにかく分からないというか、特に、最後、自由に交流をする時に、後ろの方に1つ置かれていました。教室がちょっとざわざわとしていたら、相手が喋っているのかが、マスクを外していれば口元が動いているので、「話しているのだな」と、大体の感覚で聞き取れるのですけれども、マスクをしていたら、「喋っているの？喋ってないの？」というのがまったく分からなかったもので、せめてオンライン上で、相手の方と話す時には、顔を知ってもらおうという意味も込めて、外して喋れたらいいなというふうにすごく思いました。結局、お互いが「どっちが喋っているのかな。無言なのか喋っているのか。」というのが分からないまま、時間が終わってしまっていたので、特に、自分の学校のクラスの子の顔は分かっても、交流している相手の顔というのは、上半分しか分からないというのは、ちょっと寂しいなというふうに感じたので、1対1でしゃべる時には、そういうのがあればいいなというのと、あと周りがざわざわとしていると、声がとても聞き取りにくいので、相手の声も聞き取れるようになるとすごくいいなと思いました。

それと最後に、オンラインの授業の時に思ったのですけれども、今のこの時代に求められているというか、これから必要なことが、「相手に分かりやすく説明する力」というのが、最後の発表していた子どもたちも、特にオンラインだから、画面の向こうにいる子にも一生懸命分かってもらおうように、「どう言ったら相手が分かってくれるかな」というのを一生懸命考えながら説明してくれていたのが、すごく印象的で、やはりこれからは「自分が理解していればいい」、「自分が分かればいい」、「自分の答えが正解だったらいい」ではなくて、相手の人に上手に説明して、分かってもらっているという、そういうコミュニケーション力とか、そういうのが必要だと思うし、そういうのに取り組まれていることが、すごく素晴らしいなというふうに思いました。今日はありがとうございました。

○儀部教育部長

それでは渡辺市長、お願いいたします。

○渡辺市長

今日は、授業視察の内容など、いろいろと工夫してくださり、ありがとうございました。私自身のことで言うと、ICTとかデータとかという分野は一番苦手な分野です。自分たちは本を読んで、ペーパーに書いてという世代でもあるので、今日いろいろな経験をさせてもらって、少し混乱しているところもあります。

タブレット、また、AIドリルの、自習時間での活用がありましたけれども、私どもは、いわゆるAIドリル活用などは、コロナによる臨時休業に対応しなくては行けないとか、いわゆる一人一台のタブレットの活用ということも踏まえてやってきたわけです。今日来ましてですね、いわゆる自習時間の時に自然に使っているという、私どもが目的としていたこととは少し異なる活用ですけれども、先生が来られない時に、自然に良い活用方法というのですか、楽しみながらAIドリル、タブレットを自然にやっているなど感じました。子どもさんたちは、楽しく、自分たちのものにしてやっておられ、我々の時代と違い、進化しているのだなという感じでありましたね。そういった意味で、AIドリルの活用、そういったタブレット、そういったことは良かったなと思いました。子どもさんたちが何よりも、楽しく明るくやっている。難しいものを行っているという感じはなくて、本当に良い自習教育材料となっているなと思いました。これが発展されていけば、いわゆる家庭用の自習学習といえますか、そちらの方が今からでもすぐ扱えるのではないのかなと、学校の自主教育、また、家庭の自主学習の中であればですね。そうすると今度は家庭におけるオンライン環境の問題がありますけれど、そうした形で活用できるものでしたね。私自身も、校長先生からちょっとやり方を教えてもらいましたけれど、本当に簡単にですね、そして、自分の採点がすぐできるとか、そうなれば今度はデータを蓄積しておいて、生徒と全体のレベルをどうするというに活用できるし、またその人の生き立ちと言いますかね、そういったかたちが集積されていって、どういう進化を遂げているかというような活用ができる。いわゆるこれは分析の方になっていくのだらうと思います。そういったかたちにも活用できるというのをお聴きしてですね、本当素晴らしいなと思いました。

それから、オンライン交流授業の方も、小規模校としてのいろいろな特色がある、また、自分たちと類似性がある、あるいはまったく類似性がないところと、十分にオンラインで学習交流ができるというのは素晴らしいと思いますですね。そして交流授業と言っていましたけれど、先程お話がありました、いわゆるメインとサブ、このへんが相互になったらいいなというような感じも受けました。なかなか、今のところまだ音声の状況、あるいは映像の状況ですと、ちょっと難しいかな。ですから、いわゆるメインはメインの方に行って、サブの方はまた次の機会に、というふうなかたちなのかも分かりませんが、いいかたちになっていくと、メインとサブ入れ替える、こういうことがいいなと思いました。最後のところで、交流授業のところで、ちょっと、5秒か10秒ぐらいだったですけれども、そういうふうなかたちの中で、両方の子どもたち「ワッ」

とにぎやかにしているような感じ、あの風景を見た時に、そういうふうなかたちの中で、こういう交流授業が展開していくといいなというふうに思いましたですね。

今日非常に良い勉強になりました、ICTを活用した・デジタル化の時代に対応した学習というふうなもの、私どもは「これからどういうふうに進化していくか」というの、非常に怖くもあるし、また、それ以上に期待も持ったような感じがしましたですね。だから、学習の内容も、いろいろ多様性を秘めてくるだろうし、我々考えている以上に、創造性の学習へと進化していくのではないのかなという感じもしました。そして、特に、ドリルの活用を見まして、ドリルというのをこれから、今はいわゆる、ドリルを購入というかたちになっていますが、それがおそらく将来には、先生方がドリルを作られるのではないのかな。そしたら、そういうドリル作っている先生も進歩をしていけるのだなというような感じも受けましたね。それと同時に、AIドリルの活用するときの教頭先生や、それぞれの担任の先生の対応を見させていただきましたけれど、何か先生方も一生懸命、ICT教育に馴染んでいこうという、努力されている感じがしますね。そして、その努力も、自分の意欲でもって努力をしておられる。我々はこちらかという努力というと必死で頑張るものですが、先生方を見ていて、何か努力するのが楽しい、それもまあICTかと、そうした姿かもしれないね、楽しいというようなかたちで努力されている。そして、新しい学習、新しい教育、そういったものを自分たちで作っていくのだというふうな意欲を感じて心強く思いました。

もう1つ言いますが、給食が非常においしかったですね。いろいろと工夫されて、いわゆる地元の食材使いながらとかですね、味も非常に良かったですね、本当に。私も初めて学校給食というものを味わわせていただきましたけれども、いわゆる米粉のパンのような感じで、このパンは、おそらく南部の名田島あたりかと思いながら、想像しながら食べさせてもらってですね。そして岩国レンコンとか、レンコンは全部あれば穴の数が数えられる、そんなこと思いながら、やはり楽しいですね。食材を地域のものを使っただけで、それをまた子どもさんたちに説明していただく、そうしたなかで、ふるさと紹介してもらってですね。給食もおいしく、非常に良かったです。

ありがとうございました。

○礮部教育部長

ありがとうございました。それでは教育長、お願いします。

○藤本教育長

本日は、ありがとうございました。

市長が先程言われましたように、給食が大変おいしかったです。

これまで、この中央小学校には何度も訪問させていただいておりますけれど、本当に地域との連携が抜群の学校でありまして、また、授業におけるICT活用も進んでいる学校でございます。校長先生が話しておられましたが、授業におけるフリースクールというのを取り入れられており、まさに個が生きる授業づくりに取り組んでおられるなど感じたところでございます。最後に見た4年生につきましては、昨年度ちょっと大変な学

年であったことを校長先生からお伺いして、授業が着実に変わっていくことによって、学校も変わっていくことを肌で感じました。どの学年も、一人ひとりの子どもたちが自信を持っていて、本当にいきいきと頑張っている姿、とても印象に残っています。今日、4年生の授業を中心に見させていただいたのですが、子どもたちが本当に「やってみよう」、「考えてみよう」と思うような場面が設定されてあったということ。それと、特にICTを活用したオンライン授業で、特に大事にしないではいけないことという中で、1つは今日、いろいろと交流がありましたけれど「他者とのつながり」、要するに考えのキャッチボールですね。その「他者とのつながり」と、それと「自分と教材とのつながり」、それと自分自身が自分自身を見つめ直す「自分自身とのつながり」といった、そういった「つながり」があることによって、深い学びにつながっていくのではないかなというふうに思いました。また、いろいろ「ねらい」に迫る「めあて」とか、主体的な活動、そして、今日はちょっと時間がなかったのですが、振り返りの場面もいろいろ設定しておられましたし、先生がすごく、机の間を巡視されては一人ひとりの子どもたちに声をかけて、すごく励ましておられた。それがきっと、また、子供たちに自己肯定感というか、そういったものにつながっていくのだろうなということを思いました。古屋校長先生は、オンラインをすごく駆使されて、学校経営に取り組んでおられるのですが、今後の授業でいろいろな可能性を秘めているのかなということを、すごく感じておられて、現在、県内の小規模校同士のオンライン授業のほか、県外、例えば、沖縄ともやっておられる。今回も平生町とかとやっておられるし、中学校の先生方を呼んで、例えば、英語とかですね、小学生を対象とした授業をする。こういったことも、いろいろなことが仕組まれるのではないかなということで、今後の授業の学びというか、専門性を生かすということでも可能性があるのかなと思いました。

それから、今日、5年生のタブレットドリルを使った授業、本当に楽しそうにやっていました。子どもたちに声かけてみたのですが、「どう？」と聞いたら「楽しい」「プリントよりはるかに面白い」という。今、私たちも「どうなのかな」ということで、市内の学校にいくつかアンケートを取りまして、聞いたのですが、すごく反応が良かったですね。主な感想として「答え合わせがすぐにできて、自分のレベルに合わせてできるので、やっていると勉強が楽しく感じるし、やる気が出てくる」と。それから「分からないことがあって、答えや解説がついているので、分からないままにすることがなくなった」と。それから「家でできるので、家族にも詳しく教えてもらうことができる。そこで、家族、お母さん、お父さんとコミュニケーションにつながっている」という話がありました。それから教員からも「間違えたところのアプローチも非常に丁寧で、学力の差を問わずに活用できる。また、子どもたちにとっても、操作しやすいツールであり、分かると問題が解けるし、個人学習として継続すると学力がつく」と。そのような非常に肯定的な意見をたくさんいただいております。また、今後、学力等との相関関係についても、いろいろ検証していきたいというのが目標です。それから、他市に先駆け、うちは電子黒板等もかなりやっておりますし、それが子どもたちの学習の意欲付けにもつながっている。これが、また、いろいろとICTが進むことによって、山本委員と市長がお話されておられたとおり、まだまだ進化していく可能性を十分に秘めている

と思いますし、授業改善、あるいは教員の負担軽減にもつながっていくのかなと考えております。私たちが目指している授業というのは、児童・生徒主体で、対話・協働を手掛かりとして、学習内容を深く理解する授業というのを目指しています。そのツールとして、ICTをどんどん積極的に活用していきたいということで、ICTを活用することが目的にならないよう、あくまでも対話がメインでございまして、その1つのツールとして、ICTを有効に活用した授業に取り組んでいきたいというふうに今日改めて思いました。以上です。

○磯部教育部長

ありがとうございました。

まだ、時間がございますので、皆様から御意見等ございましたら、どなたからでも結構でございますので、御発言をいただきたいと思っております。

○渡辺市長

ちょっといいですか。授業内容と違うのですが、校長先生あれですかね。エアコンを今年の夏から活用されて、その感想とございますか、実際に効果を発揮していますかね。

○古谷校長

今年は、夏場の8月から二学期が始まりました。子どもたちは、朝から学校に来る間に汗びっしょりで来るわけです。教職員も、朝からエアコンは教室につけておまして、子どもたちが、朝来た時に安心したような顔で、1時間目から、もちろんお昼まで、授業を受けております。今年はコロナウイルスの関係で、今ちょうど開けておりますように、これぐらい開けてはいましたけれど、快適に夏を過ごすことができました。それは、教員も子どもたちも実感しております。先程も申しましたように、こういうスペースで、学習だけではない特別活動とか、いろいろな活動する時も、汗をかきながらだと集中力がありませんけれど、集中して、落ち着いて勉強ができるというのは、エアコンがあったからこそだと思っております。

○渡辺市長

エアコンの部屋は、換気の問題があるから、窓をちょっと開けるわけですね。

○古谷校長

5センチほど。5センチから10センチほどです。

○渡辺市長

そうですね。私ども非常に気にしたのが、エアコンをつけながら、マスクをしていると、部屋が乾燥してマスクというのは大変かなと思ったけれど、少し開けておけばそのへんのところは解消されるのですね。それは良かったです。学習環境の向上につながっていけばいいですね。

もう1つですけれども、先程、修学旅行の話がありましたけれども、修学旅行、県外はやめて県内で萩方面の日帰りの修学旅行をされたようですね。子供さんたちの様子はどうでしたか。

○古谷校長

事前にアンケートを取りまして、今年は6年生が3校、島地と八坂と本校の3校で行きました。事前に保護者に取ったアンケートでは、中央小の多くの保護者は「泊まらせてやりたい」というアンケート結果がありました。ただ、あとの2校では、慎重な意見もありましたので、最後まで「県内宿泊パターン」と「日帰りパターン」の2つで、キャンセル料がかかるギリギリまで検討して、結局は安全というか、全員参加できるものということで日帰りをとりました。

運動会と同じで、たとえ縮小しても「行けた」、「実施できた」というところが、すごく子どもたちは喜んで、保護者も喜んでおりました。

○渡辺市長

よかったですね。やはり修学旅行というのは、学校の1つの思い出として、生涯持っておきたいですね。いろいろなかたちであっても修学旅行というのは、大事にしていきたいですね。

○山本委員

よろしいですか。2点ほどあります。1点は質問です。私たちが若い頃は、出張に行くたびに、子どもたちに自習をさせていました。その時に、自習が終わって次の日に「どうだったか」と子どもに聞いたら、「何々君がやかましくて勉強できなかった」とかです。ね、「立ち歩いて授業できなかった」とか、いろいろなこと言いますよね。そういう学級をずっと見てきた中で、今回のAIドリルというのは、子どもたちは非常に集中しているのですが、この集中はどれぐらい持ちますかね。というのは、おそらく慣れてきたら、また同じような学級の状況になるのかなと思ったものですから。

○古谷校長

学年やクラスによっても差はあるのですが、今の本校は、1年生は若干自分たちだけでは難しいですが、2年生から6年生までは、たとえプリント学習であっても、自習の立ち合いはいらないことはないのですけれど、例えそこでちょっと間を空けておいても、本校に関しては今、集中力は続きますので、タブレットであろうがプリントであろうが変わりません。

今、皆さんに見ていただければ良かったのですが、先程自問掃除という、ちょうど今放送が鳴った間、約80名の子どもたちはグラウンドにいたのです。グラウンドで草取りをして、委員の皆様が発言される間、ずっと黙って掃除をして、全く声が聞こえなかったと思います。そういう集中力とかは、日常の姿勢を始め、今までももちろん、先輩の先生方が、伝統で作ってもらっているからこそ、それを受け継いでいるのだと思って、

大変感謝しております。ですから、子どもたちの集中力とか、やる気について、私は何も心配しておりません。今までの積み重ねだと思います。ただ、AIドリルが本当に、子どもたちの意欲に向いているというのは、現代っ子ですから、先程も言われましたように、答えがすぐに分かる楽しさとか。それで、交流というのもないことはなく、困っている時に「これこうやるんだよ」というような教え合いも、私も何回か見ましたので、そういうところでのコミュニケーションは図れていると思いますので、今後いろいろな使い方ができると思いますので、進化と言われましたが、模索していきたいと考えております。

○山本委員

ありがとうございます。それともう1件は、私自身の課題なのですが、今日もタブレットを見ていたら、「鼻」を書く時に子どもが、上が「自」ではなくて「白」を書いて形をとったら、タブレットの方が解析して、「鼻」という字を見せてしまうのです。それ見てふと思ったのが、ちょっと前に、パソコンで漢字の書き順を示してくれたり、正しい字形を示してくれたりするパソコンの特別支援学級でそれで勉強していたシーンを思い出したのですが、確かに今からAIが発展してくると、正しい筆順とか、筆法とかというのは視覚的には学べます。しかし、私がおっと大事にしなければいけないと思っているのは、いわゆる「ベテランの先生方が黒板に書かれる字」なのです。本当にすごくきれいな芸術作品を書かれますよね。ああいうものは、私は残っていかなければいけないと思っています。つまり先生方の感性は、ずっと「子どもに寄り添う」という立場で、残っていかなければいけないものだと思う反面、AIが発達して、今からの子どもたちは文字を書くことがなくなってしまう。その「文字を書くことがなくなってしまう」ということと「これからの文字文化」をどう関連付け融合させていかなければいけないのかというのが私自身の、単に文字だけを捉えた時の課題なのですが、今すぐ答えを教えてほしいというような感じではありませんので、また皆さんと一緒に考えていきたいなと思っています。本当にベテランの先生方の、子どもへの寄り添い方とか、文字の書き方というのは、私は残していけないのだろうなというふうに、これはあくまでも感想であり、課題でありますので、お答えどうのではないのですけれど、以上です。

○藤本教育長

両方が必要なのでしょうね。特に若い先生方、ICTの活用技術は長けているのですがね、書くということはやはり苦手な教員も多いので、そこは、やはり基本のものとして身に付けていかななくてはならないのではないかなど。

○山本委員

美しいものを美しいと見える感性は、AIでは教えてくれませんか。そこをどうやって残していくかというのは、教育者にとって大きな課題だろうなと思うのですけれどね。

○渡辺市長

今、山本委員のお話について、特にですね、私ぐらい年取って来ますとですね、漢字をなかなか覚えられないのですね。読む方は良いが、書く時にですね。しかし、書き順を覚えているのはちゃんと書けるのですよ。それを考えた時に、いわゆる書き順というのは、字の意味も表していますものね。書き順とですね、字の意味。これをですね、やはり書き順があると、字が書ける。そしてその字の意味がよく分かるというのがありますね。ですから、いろいろなかたちの中で、書き順は大事だから。その書き順が分からないというのは、要は覚えていないような状態ですね。

○藤本教育長

ひょっとしたら、それすらもういらなくなるかもしれない時代というのが、私にとつては寂しくて。

○渡辺市長

ICTの方がそういったことを、むしろ機敏にそういう学習をさせてくれるかも分かりませんね。そして、いい意味で進化を与えてくれるかも分からない。

○磯部教育部長

はい、ありがとうございました。時間もそろそろ近づいてまいりましたけれども、あとお1人ぐらい、もしございましたらお願いいたします。よろしいでしょうか。

それではここで、今日の会議に参加いただきました、古屋校長先生に、改めてお考えや感想なり、お願いいたします。

○古谷校長

本日はどうもありがとうございました。見ていただきました4年生の、佐賀小学校の児童は、今月20日に、県庁方面に社会見学にまいりますので、ぜひこちらに呼びたいと思っていますところです。やはりオンラインだけでなく、生の交流ですね、そういうのも大事にしていきたいなと思っています。教育長さんが言われましたように、去年まで教室を飛び出して、荒れていたクラスです。それだけにパワーがありまして、フリートークを中心とした問題解決学習に、今の担任と取り組んで、本当に落ち着いてきています。あれだけの飛び出すパワーは、発言力とか、そういうパワーに変わっておりますので、大変嬉しいなと感じています。

本校は現在79名ですが、来年は74名、上がってくる1年生がだんだん少なくなってくるというのが課題でございます。徳地5校では唯一の単一学級でございますが、このままいきますと数年後には、複式が本校でも起きるのではないかと危惧しております。

また新型コロナウイルスで、地域との関係が希薄になってきましたので、これをどうにかまた元に戻したいなと思っています。ありがたいことに「しめ縄づくりは今年もやろうね」と声をかけてくださっていますので、そういったあたりで「どんどん来てくだ

さいね」というところで、地域との連携をまた深めていきたいと思っております。

あとは若手教員がだんだん増えてまいりまして、本校は、20代、30代、40代、50代の教員が非常にバランス良く配置されています。ただ、若手が増えると、その人材育成、これも課題ですので、しっかりと研修を行っていききたいなと思います。今年は研修の機会が少ないので、そこをどう工夫するかというのがまた課題でございます。

最後になりますが、教育環境の充実のために、手厚い教育予算措置をとっていただきまして、本校でもアルコール消毒を始め、様々なものが入ってまいりました。本当にありがとうございます。特に、先程からありますエアコンの設置、また、徳地5校での交流学習での予算措置で、バス利用又はバスの補助も出していただいております。これも大変感謝いたします。また、ICTに関しては情報支援員の方のサポートがあり、大変心強く思っております。

人にお金がかかっているというのは、私も山陽小野田市で勤め、平生町で勤め、市外で勤めると、山口市の手厚さがとてもありがたく、そこに予算をかけていただいているというのは、大変感謝いたします。また、教育委員会事務局の皆様には、特に学校担当主事は、去年も今年も頻繁に学校に来ていただいて、うちの職員のように、親身になって聞いていただきますし、十分に情報共有ができてお感じしております。こうしたことにより学校が安心して教育活動ができるもとだと思っております。本当に感謝いたします。

ありがとうございます。以上でございます。

○磯部教育部長

はい、ありがとうございました。それでは最後に、教育長と市長に一言ずつ頂戴したいと思います。教育長、お願いします。

○藤本教育長

まずは、本日の総合教育会議の会場を、それから授業提供をしていただいた古屋校長先生を始め、今日説明いただいた栄養教諭の先生、中央小学校の先生方に、心から感謝を申し上げます。ありがとうございました。また、子どもたちにも「よく頑張ったね」と励ましてやってください。「すごく感動したよ」ということを言ってほしいと思います。

これからの山口市の教育施策を講じる上で、いろいろ参考になることはたくさんございました。先程、校長先生が言われたのですが、山口市から出ていかれた先生方が「やっぱり山口市が良かった」と、出て行って初めて山口市の良さを痛感したということをよく言われます。今の先生方も「山口市は出たくない」ということ言われますが、そうすると定住実現につながっていくものであるとも感じております。

本年度、第二次山口市教育振興基本計画、ちょうど3年目を迎えております。いろいろ施策を講じる上で、私が今、すごく大事にしていることが、アセスメントというか、現状把握をしっかりしたいということでございます。今、指導主事が、毎日のように学校を訪問しております。それから私もいろいろ学校訪問しましたが、何年か前に、

この山口の学校訪問した時と比べて、子どもたちがすごく落ち着いてきたなということを感じています。それは校長先生方も同様の考え方を持っておられました。特に学力面につきましても、今回、全国学力・学習状況調査が、コロナの関係でできなかったのですが、昨年度を見ますと小中学校とも、国語・算数・数学とも全国、県平均を上回っておりました。去年、特にすごいなと思ったのは小学校の国語で、全国比が9・7ポイント上だったのです。それから中学校の国語も数学も全国比5ポイント上でありました。子どもたちのすごい頑張りというか、国語が上がるというのはなかなか難しいのですが、よく伸びたなということを感じています。それと今年度、質問紙だけは、今回、県教委がやっていただいて、分析してみたのですが、去年と比べてすごく伸びたポイントが「学級の友だちとの話し合い活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができている」。まさに話し合い学習ですね。それから「家において自分で計画を立てて勉強している」という割合が、中学校が10ポイントぐらいポイント上がってきたと。それとあと「地域や社会を良くするために何をすべきか考えることがある」ということで、確かにこのコロナ禍の関係で、なかなかコミュニティ・スクールの活動はできなかったのですが、しかし、そういった中でも子どもたちは一生懸命、そういった地域のことを考え始めてきたというのは、すごく成果かなというふうに思います。やはりこのコロナ禍においても、地域の方々の支援はすごくバックボーンにあって、子どもたちや先生方が一生懸命に頑張っている。それでやはり私は、市長さんを始め、市長部局の方々とともに、情報を常に共有しているのですが、すごくソフト面・ハード面、両面でバックアップしていただいている。補助教員もそうですし、エアコンもそうですし、ICTの機器もそうですし、他市町よりも、すごく思案していただいている。本当に感謝しているし、ただそれを実際に成果として今から結び付けないといけないなということ、教育長として今思っております。今、私も考えているのが、「本物の学力」を定着したい。その「本物の学力」というのは、知識とか技能だ、そういった目に見える学力だけではなくして、思考力とか、判断力とか、表現力とか、今日あったような「他者とかがわかる力」、あるいは「自己肯定感」とか、そういった全て、「未来を生き抜く力の核となるもの」、そういった力を育てないといけないし、もう1つは「地域への誇りと愛着」。そういったシビックプライドを醸成するということが必要なのかなということを感じております。そういった、学校教育の充実とか、学力向上とか、シビックプライドの醸成が、定住実現とか、地域活性化のコンテンツにもつながっているのかなということを感じ始めていて、学校づくりと地域づくりというのは一体化するのではないかなと最近すごく感じております。山口市は、まだまだ課題がたくさん山積しております。授業改革を進めているとは言いつつも、まだまだ進化の途中でありまして、意識改革をどんどんしていかないといけないというふうに思っておりますし、今、いじめとか暴力行為も、随分減ってきております。ただそういった中で、不登校問題とかもござりまするので、そういった問題もしっかり着手して行って、便宜を図りながら、進めていきたいなというふうに思っております。また、学力面につきましても、YCAMとかの連携とかですね、いろいろな連携も模索しながら、未来型の授業とか、そういったものが構築できるといいなということ、思っている次第でございます。

本当に今日はどうもありがとうございました。

○礒部教育部長

では市長。お願いいたします。

○渡辺市長

校長先生、大変お世話になりました。校長先生始め、現場の先生方、そして、児童・生徒が、私どもの総合教育会議が「いいかたちになれば」というふうな気持ちをもっていろいろと気配りをさせていただいて、本当に嬉しかったです。ありがとうございます。

学校ですすね、こうして授業視察して、会議を進めるかたちにしましてから、3回目になりましようかね。今日、給食もいただいてですすね、本当に有意義なかたちになってきましたし、そしてコロナ禍で、どういうふうな現場の状況かなというようなこと、随分心配していましたがけれども、何か「コロナ禍」というようなことを全然感じないようなですすね、良い教育環境にさせていただいているというふうなことで、本当に嬉しく思いました。

そしてまた、今日は授業視察を通じましてですすね、いろいろな先進の教育環境の必要性と言いますか、世の中も随分変わってきております中で、デジタル化の時代、また、「Society 5.0」の時代、また、「5G」の時代、いろいろなかたちの中でですすね、このような云々に関わりなく、世の中大きく変わろうとしている。そして、大きく変わろうとするときに、一番先進的に進んでいくのが教育環境ではないかなというふうにつくづく思いましたし、また、そのことは必要になるのではないかと。まず、教育環境、そういった人づくりが、どんどん進んで、そして、そこのあとを追うように世の中が変わっていく。こういうふうな理想形に近づいているのだなというふうな実感を味わいました。本当にありがとうございました。

また、私どもも、来週には、来年度予算編成方針の発表がございいます。そうした予算方針の中におそらく今のことを入れ込まないといけません。そうした予算編成方針を各部署に提示してですすね、今から予算編成に入ります。そして今日、我々経験したことをですすね、必ず生かしていけるような来年度予算にしたいと思ひます。

また、この度のコロナの問題がありますけれども、放課後児童クラブ入所者が、どんどん増えてましてですすね、そうしたかたちの中で、放課後児童クラブ、まだまだ増やしていないといけません。そうしたときに特にですすね、学校の中で、放課後児童クラブの建設・整理をしていただきたいなど。いわゆる学校に御迷惑かけないように外でとは思ひのですけれども、なかなかきちんとした場所が取れない。特に悩んでいるのは湯田あたりもですすね、今、そこどころに多世代交流・健康増進拠点施設を造っていく中で、今の放課後児童クラブを移転しなくてはいけません、学校とそのような協議をしていますけれども、そうしたようなかたちで、教育委員会の先生方にですすね、いいかたちの中で、学校の校庭の中に、また、放課後児童クラブができるようなことのですすね、御協力を願ひたいと思ひますので、よろしく願ひしたいと思ひます。今日の総合教育会議を生かしながら、来年度予算編成にしっかりと一生懸命に、教育や人づくりのために頑張

っていきますから、教育委員会の方、よろしく願いいたします。今日は本当にありがとうございました。

4 閉会

○儀部教育部長

ありがとうございました。予定の時刻となりましたので、本日の会議を終了させていただきますと存じます。

皆様、大変、お疲れさまでした。今日はありがとうございました。

14時 会議閉会